

神宮と伊勢のまちを伝える

O I S E S A N N E W S

お伊勢さんニュース

伊勢文化舎／〒516-0008 三重県伊勢市船江2-22-25 TEL 0596-23-5166 FAX 0596-23-5241 E-mail otayori@isebito.com

第6号

6

●企画・発行 伊勢文化舎
 ●発行日 令和7年12月1日
 ●発行部数 55,000部
 ●協力 神宮司庁
 神社本庁
 近畿日本鉄道（株）
 伊勢御遷宮委員会
 伊勢のお木曳行事調査団
 伊勢志摩観光コンベンション機構

第六十三回 遷宮諸祭 御船代祭が斎行される

「御船代」が麗しく造れるように
 平安時代の衣裳を着けた童男、童女が
 祭りの主役を務め、奉仕する。



目次
1面 神宮と伊勢のまちを伝える
2面 晴々しく御船代祭
3面 お木曳の始まりを告げる
4面 御遷宮のかたチ「I」
5面 伊勢にお木曳の夏が来る！
6面 お木曳行事入門講座 其の三
7面 「お伊勢さんご遷宮」事典
8面 櫻井治男氏インタビュー
お伊勢さんのご遷宮展
伊勢志摩のまつり暦・ご案内

今年、最後を締める遷宮諸祭の一つ、御船代祭が、真夏日の中、九月十七日に内宮、十九日に外宮で行われました。

「御船代」とはご神体を納める御樋代をさらに納める御器のことを言います。御用材を伐採するに際して御榎山に坐す大神に御船代が麗しく造られるよう祈りを込め、忌鎌、忌鋸、忌斧を捧げ祀る祭りです。

参道での参拝者の衆目を引いたのは、神職や小工の先頭を歩き、平安時代の子ども衣裳、半尻や袴の装束をまとい、浅沓を履いた物忌の童男、童女です。物忌とは神様に仕える清らかな存在を指し、古くから祭りの主役として遷宮など重要な祭りに奉仕してきました。今回も神宮司庁に奉職する神職の子女で小学校低学年から高学年まで六名が、無事、役目を務めました。

お子良こがひたすら脇を引きてゆく

奇のやさしさ。玉砂利の道

三重県出身で歌人の岡野弘彦氏は、前回の第六十二回遷宮の御船代祭に来賓として参列した折、物忌の子どもたちの奉仕する姿に感動して、このような歌を詠されました。

「お木曳行事」は町衆の誇り

年が明けると、いよいよ、お木曳行事が始まります。お白石持行事と並び、神領民が遷宮に奉仕できる数少ない行事です。奉仕である一方、町衆の誇りをかけて競い合い、その活力を原動力として、町ごとの地域性や文化性が育まれてきました。

近年、担い手不足で継承が危ぶまれる中、各団は兄弟団や友好団をつくり、あるいは二団が合同で一台の奉曳車やソリを曳いて奉曳の維持を図っていました。こうした「扶助の文化」もお木曳から生まれました。

さて、今回ですが、川曳が二十団、陸曳は五十団が参加を予定しています。五月九日から土日ごとに行われます。ご期待下さい。

第六十三回神宮式年遷宮

令和七年九月十七日 [内宮] 十九日 [外宮]

澄み渡る山の
空気に包まれ
晴々しく

御船代祭

御船代とは、御神体を納める御桶代をさらに納める御器のこと。その御用材を伐採する御遷宮五つめの祭りが御船代祭だ。内宮、外宮の山の麓の祭場で奉仕した物忌の童男・童女たちは、ただひたむきにその役目を務めた。

緑の杜に包まれ、御船山の木の本に坐す神を祀る御船代祭。正宮、第一別宮、諸別宮繰り返される。内宮では月読宮など九つの別宮が同時進行

で斎行されるという壯観な光景。風日祈宮橋そばの宮山祭場は、祭員の動き一つ一つに緊張が走り、厳かで清々しい空気に満たされた(1面)。

御用材伐採にあたり
御船山の木の本の
神に祈る

御船代祭は天皇陛下の御治定を賜って日時が定められる、重要な遷宮諸祭の一つ。

九月十七日の秋晴れの朝、内宮の祭典では、まず久邇朝尊大宮司ら約八十名の祭員が正宮に拝礼。次いで、忌火屋殿前でお供え物と奉仕員を祓い清め、宮山祭場へと移る。白衣に白い明衣を掛け、その列の中に一人、物忌と呼ばれる子どもの姿がある。



荒祭宮の御船代祭。五色の幣が囲う祭場で物忌の林宜孝さんが忌斧を捧げ、伐採作業の安全を祈る(内宮)



祭典の一番初めに正宮の物忌をつとめた西本敬俊さん(内宮)

これに続いて第一別宮の荒祭宮、そして九別宮の祭儀が行われ、その当日、物忌の木を伐る所作に合わせ、木曽の御船山において、実際に御船代を使われる御用材のヒノキを伐採する「伐木ノ儀」が行われた。



約3時間かけて奉伐(上松町) 神宮司庁提供

御船代祭内宮の日に長野県上松町木曽国有林で、外宮の祭儀に合わせて岐阜県中津川市の裏木曾国有林で御船代の御用材が伐採された。

上松町では十七日、榎夫に選ばれた神宮営林部の職員と地元林業関係者の十五人で、御船代となる木の伐採に臨んだ。三方向から斧を入れる「三ツ緒伐り」の技法で、樹齢およそ三百年の大木が伐り倒され、中津川市でも十九日、榎夫が代わる代わるに斧を振り、無事伐採。六月の御船始祭に続き、選ばれたヒノキが、それぞれに祈りを込めて

木曽谷、裏木曾で 御船代祭御船山伐木ノ儀

取材・文 中村元美／撮影 鈴木和宏、本紙



伏籠につがいで収められた白鶏。後ろは物忌の工藤瑞生さん(外宮)

外宮でも同様に
物忌が大役を果たす

翌々日の十九日、不安定な雲行きに万全を期し、外宮土宮横の祭場にはテントが設置されたが、祭典中は青空に恵まれた好天となり、正宮、多賀宮、そして土宮含む三別宮の神事を滞りなく斎行。内宮同様に物忌の童女たちが主役

となり、三人の子どもがその役目をまつとうした。伐採された御用材は立派な御船代となつて、八年後の御船代奉納式で、新しい殿内に奉納される。



風日祈宮橋を渡り祭場へ向かう(内宮)／物忌の父とともに奉仕する童女の吉田乙葉さん(外宮)

明治13年(1880)、明治天皇の御聖断を仰ぎ、伊勢神宮の遙拝所として建てられたのが「東京皇大神宮遙拝殿」、いまの東京大神宮です。皇室の御祖神である天照大御神をまつり、国民の総氏神と仰がれる伊勢神宮(内宮)の御神徳を、皇都東京にあまねく宣布し、都民の心のよりどころとなるようにとの願いから創建され、140年余の歳月が流れました。「東京のお伊勢さま」東京大神宮は、いまも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。



東京のお伊勢さま



東京大神宮

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-4-1
電話(03)3262-3566 FAX(03)3261-4147
<https://www.tokyodaijingu.or.jp/>
JR総武線、地下鉄東西線・有楽町線・南北線・大江戸線
「飯田橋駅」徒歩5分

伊勢にお木曳の夏が来る！



外宮北御門直前の交差点をエンヤ曳で疾走する（陸曳）

「お伊勢さんのご遷宮」と聞けば、伊勢っ子の心にまず浮かぶのがお木曳。木遣りに合わせてエンヤ！と綱を曳く。陸曳も川曳も、いろいろな見どころや物語が生まれている。知ればもっと、もっと、お木曳を楽しめる。

海から川を遡り 御用材は

その昔、御用材は木曽など
の山々から伐り出され、海を
わたり川を遡って運ばれてき
た。そのため、今でも、お木
曳は陸曳も川曳も川からス
タートする。

外宮領の団は宮川の関場か
ら、お木曳車に御用材を積ん
で「陸曳」で外宮へと運び込
み、内宮領の町々は、御用材
を載せたソリを曳いて五十鈴
川を遡る「川曳」で内宮へ。
陸曳も川曳も、それぞれに、
歴史を積み重ね、楽しみ方や
作法ができている。

曳いてうれしい
見て楽しい

10のポイント お木曳を楽しむ

木遣りはお木曳の華。出発
時などに唄う本木遣りや川か
らお木を曳き揚げるときに唄
う水揚げ木遣りなどがあり、
節回しや歌詞も団ごとに多彩
だ。音頭をとるために木遣り

1 木遣り

木遣りはお木曳の華。出発
時などに唄う本木遣りや川か
らお木を曳き揚げるときに唄
う水揚げ木遣りなどがあり、
節回しや歌詞も団ごとに多彩
だ。音頭をとるために木遣り

2 練り

曳き綱を左右に広げたり、
中央でぶつかり合ったり、時
には木遣り子を挟み上げるな
ど、練りは曳き子のお楽しみ
の時間。川曳では水を跳ね上
げ涼しげ。陸曳では、道幅が
広くなり、練りを派手に楽し
む団が増えたという。

3 お木曳車とソリ

お木曳車（奉曳車）のつく
りやワン鳴り、絵符や幟など
の飾りつけなど、お木曳車は
見どころも満載。ソリも幟を
立てて華やかに飾る。各団見
比べて楽しみたい。

曳き綱を左右に広げたり、
中央でぶつかり合ったり、時
には木遣り子を挟み上げるな
ど、練りは曳き子のお楽しみ
の時間。川曳では水を跳ね上
げ涼しげ。陸曳では、道幅が
広くなり、練りを派手に楽し
む団が増えたという。

4 桅子方と荷締め

車やソリの後ろで、梃子綱
を肩に掛ける梃子方は、ブ
レーキとかじ取りを担う。御
用材の荷締めも、多くは梃子
方の仕事だ。荷締めの美しさ
や梃子方の動きなど、御用材
の後ろも要チェックだ。

7 エンヤ曳

「エンヤ！エンヤ！」と団
員みなが声を合わせ力強く走
りながら曳くエンヤ曳。陸
曳では外宮北御門前のかど
角、川曳では宇治橋袂から陸
への曳き込みで行われること
が多い。



大勢の見学者に見守られ、宇治橋横からお木を曳き上げる（川曳）

9 浜参宮と 上せ車・帰り車

宮川堤のドンデン場でエンヤ！／御用材の上で唄声を響かせる本木遣り（共に陸曳）



出発地点への上せ車は華やかに／二見興玉神社にて浜参宮のお祓い

10 団ごとの歴史や特色

参加者が前もって「二見興玉」
神社で祓いを受ける「浜参宮」。
また、お木曳車を出发点まで
運ぶ「上せ車」や奉曳後の「帰
り車」には特別な飾りや趣向
を伴う団が多い。本奉曳以外
の動きも見逃せない。



6 踊りや演奏の賑い

法被には各団の歴史と美意
識が表れている。背中の文字
や柄にご注目。役割によつて
色や長さを変える団もある。
どこの法被がかっこいいかな。
先導車での鳴物演奏、休憩
所での伊勢音頭の踊り披露や
若者たちのパフォーマンスも
見もの。じっくり見たい。

8 難所

陸曳では、宮川から上げた
御用材の水を切るドンデン場
や最後に御用材を入れる外宮
の山田工作場内にある貯水
池。川曳では、二つの堰や御
用材を曳き上げる宇治橋下流
などは多くの人が見守る難
所。見物可能な場所では「エ
ンヤ！」と声をかけて応援を。

10 団ごとの歴史や特色

兄弟団や友好団の助け合い
や、まちの歴史による特別な
御用材の奉曳など、各団の物
語もぜひ知りたい大事なポイ
ント。



岩戸屋は
今も昔も内宮前

お多福とともに
お伊勢さんニュース

豆腐庵山中
伊勢市宇治中之切町95番地
電話 0596・23・5558 木曜定休



伊勢・内宮前おはらい町
岩戸屋

TEL 0596・23・3188
FAX 0596・28・1322



陸曳・川曳のコースと見どころ



伊勢のまちに「エンヤ」の声が響く夏
色とりどりの法被や幟が風に揺れて
陸曳も川曳も見どころが満載！



第六十三回神宮式年遷宮
令和八年 お木曳行事（第一次）奉曳日程予定

	奉曳日	奉曳学区等	奉曳順
陸曳	5月 9日(土)	中島	出雲町、中島、徳川山、辻久留町
	5月 10日(日)	中島	小川町、宮川町、西口町、京町、二俣町
	5月 16日(土)	早修	常磐仲町、常磐第一、常磐西世古、宮町、浦口町
	5月 17日(日)	有緝・宮沼	宮沼連合、河崎南側・河崎旭通合同、河崎六ヶ町、神久社、船江
	5月 23日(土)	浜郷・小俣	一色町、通町、黒瀬町、小俣町
	5月 24日(日)	神社・大湊	小木町、馬瀬町、神社港、大湊
	5月 30日(土)	御園	新開、王中島、下長屋、上長屋、高向
	5月 31日(日)	豊浜・明倫・北浜	磯町※(内宮へ陸曳)、岩渕町、岡本町、吹上町、尾上町、北浜連合
	6月 6日(土)	城田・二見	川端町、莊、西、今一色
	6月 7日(日)	宮山・修道・厚生	前山町、豊栄会、倭町、曾祢町、宮後
	6月 13日(土)	厚生	一志町、八日市場町、本町、大世古町、一之木町

	奉曳日	奉曳学区等	奉曳順
川曳	7月 25日(土)	二見	松下、江、茶屋、三津、山田原・溝口合同、光の街
	7月 26日(日)	進修・有緝	宇治、二軒茶屋
	8月 1日(土)	四郷	鹿海町・一宇田町合同、楠部町、中村町、朝熊町
	8月 2日(日)	修道・大湊	大湊、桜木町、桜が丘、中之町、五十鈴ヶ丘、古市

資料提供 伊勢御遷宮委員会 (TEL 0596・25・5215)

※コースは二十年前のもの
※4・5面の写真は第六十二回神宮式年遷宮
お木曳行事のものを掲載



心身清めて
お伊勢さんへ
まず二見浦で浜参宮

二見興玉神社

〒519-0602 三重県伊勢市二見町江 575
TEL 0596-43-2020



外宮へ奉曳は宮川から陸曳で

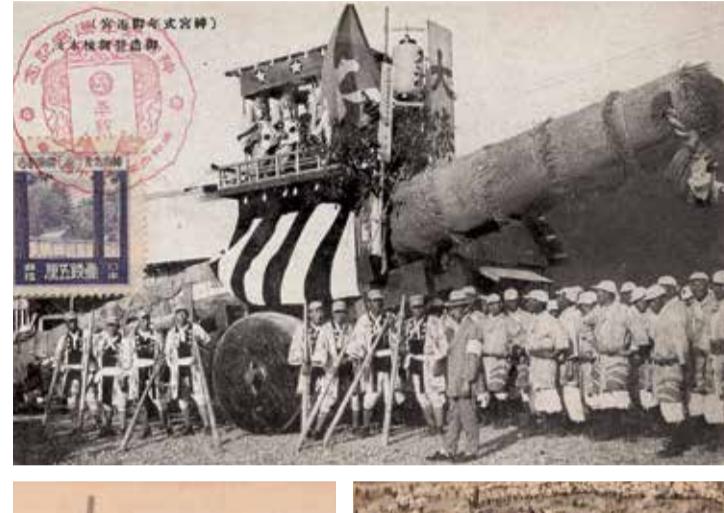
文 増田研一郎（伊勢市情報戦略局文化政策課長）

いよいよ来年と再来年、伊勢の町をお木曳車が練り歩く。その特徴、コースと見どころは――。

ワン鳴りに木遣り唄 各団自慢の個性

伊勢の住民が参加し、御用材を神宮に曳き入れるお木曳行事。外宮へは貯木池（①）のあった宮川から北御門まで陸路を曳くことから陸曳と呼ばれる。陸曳には大きく二つの特徴がある。

一つは御用材を運搬するお木曳車である。大八車を大きく頑丈にしたような造りで、陸曳を行う各奉曳団が所有



上▽「御造當御棟木曳」大湊の絵符
が掛かる／右下▽「伊勢神宮御造當
材御木揚之光景」／左下▽「伊勢神
宮御造當材御木宮川貯木場水揚」
絵葉書三枚提供 伊勢市

し、奉曳車とも呼ばれる。大ささは奉曳団の規模により、さまざまに各団の個性が見られる。お木曳車が動く際に響く音がワン鳴りである。車軸の心棒が回転する車輪（ワントンタ）の部材とこすれ合うことで生じ、音色の調整に各団の神経が注がれるので聞き比べては

音がワン鳴りである。車軸の心棒が回転する車輪（ワントンタ）の部材とこすれ合うことで生じ、音色の調整に各団の神経が注がれるので聞き比べては

音がワン鳴りである。車軸の心棒が回転する車輪（ワントンタ）の部材とこすれ合うことで生じ、音色の調整に各団の神経が注がれるので聞き比べては

音がワン鳴りである。車軸の心棒が回転する車輪（ワントンタ）の部材とこすれ合うことで生じ、音色の調整に各団の神経が注がれるので聞き比べては

音がワン鳴りである。車軸の心棒が回転する車輪（ワントンタ）の部材とこすれ合うことで生じ、音色の調整に各団の神経が注がれるので聞き比べては

音がワン鳴りである。車軸の心棒が回転する車輪（ワントンタ）の部材とこすれ合うことで生じ、音色の調整に各団の神経が注がれるので聞き比べては

宮川ドンデン場からかつての参宮街道を

次に、陸曳のコースと見どころを紹介しよう。出発地は度会橋上手の宮川となる。ま

ず、御用材をソリに載せ、川中を引き回してドンデン場に向かう。ここでのドンデン返し【②】はお木曳ならではの所作で、出発地での見せ場となつている。

そこで、度会橋上手の宮川となる。ま

す、御用材をソリに載せ、川中を引き回してドンデン場に向かう。ここでのドンデン返し【②】はお木曳ならではの所作で、出発地での見せ場となつている。

その後、御用材は出発地点に並ぶお木曳車に荷締めされる。かつての狭い街道筋に各奉曳団の幟や飾りを付けた車がひしめき合い、壯観な眺めとなる。

外宮へは県道伊勢南島線を進む。筋向橋【③】はコースのほぼ中間地点で、ここで休憩し木遣りや踊りなどを披露する団が多い。

さらに県道を進み、最後の見せ場となるのが外宮北御門前である。エンヤ曳【④】で勢いよく交差点の角を曲がる団やまっすぐに曳く団、静かに曳き込む団など奉曳の仕方もそれぞの団の個性が見られる。

来年、再来年と二カ年に渡り催されるお木曳行事。伊勢ならではの二十年ごとに巡る行事に注目したい。

次世代にお木曳、お白石持行

事を伝えようとはじまつた初穂曳。今年で五十四回目を迎えた。

（伊勢神宮奉仕会主催）

初穂曳 10・11・15 陸曳
10・16 川曳

伊勢の木曳行事

調査団レポート



お木曳事典

木曽から伊勢湾を経て運ばれ、海沿いの大湊で外宮用に仕分けられた池

材貯木池跡（旧跡）と称した。度会橋の下手にあった

貯木池跡（旧跡）と称した。度会橋の下

木曽から伊勢湾を経て運ばれ、海沿いの大湊で外宮用に仕分けられた池

材貯木池跡（旧跡）と称した。度会橋の下

木曽から伊勢湾を経て運ばれ、海沿いの大湊で外宮用に仕分けられた池



『伊勢のお木曳』『伊勢のお白石持』の事典ページ

来年、神宮式年遷宮について分かり易い解説をめざした本が出版される。その名は『お伊勢さん「ご遷宮」事典』。神宮職員、大学の研究者・学生、お木曳・お白石持を詳しく知るまちの人々など、幅広い人たちが執筆したという。編集委員の代表である皇學館大学の櫻井治男名誉教授にお話を聞いた。

まずは、出版の動機を教えてください。

——前回の第六十二回神宮式年遷宮（平成二十五年）のときに、「皇學館大学お白石持行事調査団」を結成し、大學生、文化舎スタッフを中心と高校生などもメンバーとして、奉獻について調査しました。その活動の成果は、『エンヤ!』というタイトルの報告書で発信したのですが、そのときから、メンバーの多くがお木曳やお白石持についての継承、記憶が薄れてゆくという心配を持っていたので、そこで、第六十三回の御遷宮準備が始まるのを契機に、たくさんの方に御遷宮を

親しく知つてもらえる本があるといいねという話になり、出版を決意しました。そして、言葉を解説した「辞典」ではなく、事柄について説明する「事典」として刊行しようといふことになりました。今まで注目されなかつた事柄にも光を当て、先人たちの積み上げたものを大事に拾い上げた中で、現代の事典としてつくりました。

筆者はどのような方々ですか。

——神宮司庁の現職員や元職員の方々、皇學館大学と國學院大學の先生方や大学院生、学部生、地元伊勢の歴史・文化の研究者など約五十人、幅広い方々に書いていたりています。これによって、遷宮のさまざまな事柄について、広い視点から記述していくたくことができます。説明内容の根拠を探り、事実を慎重に積み上げることを大事にしました。

——地元伊勢の方々はもち

て、しっかりと伝わるよう心がけました。『風流』と呼ぶべきものを生んでいくような、お木曳文化の「良さ」が伝わるとうれしいですね。そして、今後、さらに研究を深めたいという人のために、資料的な記述をしていきます。また、奉曳や奉船を支える伊勢の町々についても、詳しく報告がなされています。そして、資料的な内容のものも掲載しています。

遷宮に関する事象や言葉の解説についても、古い由緒を持つと思われがちだが実はまだ新しいというような場合には、いつから始まったかを示すなど、認識を深めてもらえるよう配慮しています。

——どうお考えですか。

歴史と現代性が融合する本として、さまざまなニーズに対応できると思いますし、多くの人に興味を持つてもらい、遷宮が盛り上がる要素の一環として、この本が役立つと良いと思っています。

『お伊勢さん「ご遷宮」事典』の概要

発行日 令和8年中に予定 [次号でお知らせ]
編集『お伊勢さん「ご遷宮」事典』編集部会
発行者 (有)伊勢文化舎
定価 2000円前後予定
サイズ A5判 250頁前後 無線綴じ製本

主な内容

- ①総論・神宮遷宮編 ②お木曳・お白石持編
- ③伊勢のマチ編 ④資料編

主な展示内容

- ◆展示パネル他
(大黒ホール)
 - ・ご遷宮の諸祭と行事
 - ・御社始祭とご神木、そして伊勢へ
 - ・木曽松で繋がる木曽と伊勢
 - ・写真で見るお木曳行事
 - ・「伊勢講暦」で見る神宮の魅力



赤沢自然休養林

- ◆木曽を知る 12/6・7
(おかげ横丁内)
 - ・木工体験コーナー(有料)
 - ・木曽の獅子狂言・木遣りの披露(6日のみ・太鼓檻)
 - ・木曽の名物・五平餅を味わう
 - ・木曽の物産販売他



御船代木の奉曳(内宮)



御神木祭(上松町)

伊勢文化舎も本展示の企画で参加いたします。ぜひ、ご来場ください。

主に写真パネルを中心に、木曽・上松町の三ツ緒伐り保存会の全面的な協力を得て開催されます。

今年(令和七年)から、ご遷宮は同十五年の遷御まで八年にわたり行われます。同展ではご遷宮を記念して、今年四月から始まりました山口祭、御社始祭、御船

代木奉曳、御船代祭を振り返り、主に写真パネルを中心、木曽・上松町の三ツ緒伐り保存会の全

面的な協力を得て開催されます。伊勢文化舎も本展示の企画で参加いたします。ぜひ、ご来場ください。

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

テーマ
「御用材は木曽から伊勢へ」

企画協力
伊勢文化舎

主催
株式会社伊勢福
問合せ
おかげ横丁総合案内所
0596-23-8838

入場無料

会場
おかげ横丁大黒ホール
(伊勢路名産味の館2階)

期間
令和7年12月5日(金)~14日(日)
十時~十六時半

伊勢志摩のまつり暦



夫婦岩大注連縄張神事

1日(月) 御酒殿祭

12月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 伊勢神宮内宮

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

5日(金)～14日(日) お伊勢さんのご遷宮展

伊勢市、おかげ横丁

12月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 伊勢神宮内宮

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

12月

11日(日) 一月十一日御饌

内宮四丈殿において天照大御神、豊受大御神をはじめ、諸宮社に坐す神々に御饌と共に進し、大御神と共に御饌と共にされる祭り。午後1時から五丈殿で歌舞「東遊」が奏られる。

時

10時～

伊勢市 伊勢神宮内宮

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

14日(土) 高向の御頭神事

800年余りの伝統がある国重要無形文化財。雌雄一対の獅子頭(御頭)を振り回す激しい舞が披露され、地区内を巡り、無病息災を願う。

時

伊勢市御園町、高向神社

伊勢市文化政策課 TEL 0596・22・7885

14日(土)～15日(日) 神祭・八幡祭

大漁満足と家内安全を祈願する弓引き神事。消炭とフノリで練つた墨を塗つた「お的」を担いで坂を駆け上がると、男衆が墨を奪い合う。

時

16時30分まで

1月曜日(祝日の場合は翌日)

伊勢市神田久志本町 TEL 0596・52・3800

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時

10時～

伊勢市 二見興玉神社

伊勢市 伊勢神宮外宮、内宮ほか

神宮司庁 TEL 0596・24・1111

15日(月)～25日(木) 月次祭

1月の月次祭の御料酒が、うるわしく醸造されるようお祈りをする。

時